

学 園 報

No.36

富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/>

富山国際大学付属高等学校

URL <http://www.tuins-h.ed.jp>富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/>

富山短期大学付属みどり野幼稚園

URL <http://www.fsnet.or.jp/~midorino/>富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/>

●学校法人富山国際学園

〒930-0193 富山市願海寺水口444

TEL/076-436-5139

FAX/076-436-5444

私学の殿堂を目指そう



理事長

金岡 祐一

理事長：国際社会はパワーバランスの新秩序への模索。日本社会はアベノミクス第3の矢の動向・百家争鳴の渦中。その中で我々の学園は、富山県教育界への私学貢献の牽引者の責任を負い、教職員協力して各校の教育力の強化につとめ、「私学の殿堂確立」を目指します。

富山国際大学：26年度に続いて入学定員を確保しました（充足率105%）。「現代社会学部」は、環境デザイン専攻で八尾町桐谷地区をフィールドに「環境から見る富山の中山間地の未来づくり」と題し公開シンポジウムを実施。観光専攻では国内旅行業務取扱管理者試験に7名の合格者。富山県ロシア語スピーチコンテストで1位、2位は国際大らしくてよい。ポート部は、何と全日本新人選手権大会の女子シングルスカルで優勝！男子も2種目で4位。就職内定率95%で、質も向上です。「子ども育成学部」では全教室に書画カメラとブルーレイ対応プレイヤーを整備（アクティブラーニング）。26年度就職率100%、専門職各分野で成果：教員採用試験合格11名、公立保育士採用13名、社会福祉士国家試験合格14名。合格率で「全国私大中、2位」は立派。1人当たりの法定免許・資格取得数：4種類1名、3種類41名、2種類19名、1種類1名と、教育成果をあげています。

富山短期大学：7年に一度の「短期大学基準協会、第三者評価訪問検査」（昨年9月）に（当然ながら）、適格の報告書。全学をあげての努力の結実です。「食物栄養学科」は、全国食品事業協同組合連合会主催の料理コンテスト、地域大会で最優秀賞を授賞、全国大会へ出場し、県内料理コンテストで特別賞やNo.1レシピ等の勉強成果を発揮しました。「専攻科食物栄養専攻」は、16名全員が修了、既修得者1名を除く15名全員が学位（栄養学）を取得、就職率も100%の好成績。「幼児教育学科」は、昨年に比し志願者数回復。学びを活かしたボランティア活動への参加も大幅に増加し、総合的授業・オペレッタも発表しました。就職率100%、公務員合格者15名（県下総合格者の1/4を占める由）。今年2～3月、北日本新聞

「読者のひろば」の特集「学生の目」に、本学科学生諸君14名がそれぞれ感想文を連載したことは、面白い企画でした。「経営情報学科」は、ハンディキャップをもつ学生を含め、就職率100%を達成。学科開設来、初めて学生が日商簿記検定1級を取得したほか、各種認定資格、検定資格において過去最高の取得率となったのは、いいぞ！「福祉学科」は、当学科が事務局をつとめ、富山県介護福祉士養成校協会（会長は金岡）が富山県厚生部から受託した「高校生向け福祉・介護ガイドブック FUKUBON」を製作し（7,000部）、県内68高校等に配布しました。

富山国際大学付属高校：県内私立学校で5年連続定員確保は本校だけ、という健闘ぶり。県内実施の英語スピーチコンテスト、英語ディベートコンテストのタイトルを総なめし、「英語の国際」の面目躍如はうれしい。生徒全員がタブレット端末（iPad）を持ち、全教科で活用。本校活動を全国へ発信すべく、公開授業も実施しました。

富山短期大学付属みどり野幼稚園：本園の保育成果が広く保護者層に好評を得、遠方からの希望者も増え、私立幼稚園の園児数減少の中、本園は安定した数を確保しています（5月1日現在101名）。しかし保育室の数の限界のため何名もお断りしているのは、むしろ理事長の宿題。保護者会も父親の会の活動や園庭の整備等に、積極的に協力していただいています。

社会福祉法人富山国際学園福祉会・にながわ保育園：富山市立保育所の民営化を引受けて、平成17年4月の運営出発から10年が経過。子ども・子育て支援新制度の下、幼児教育学科、子ども育成学部の協力により、地元の信望を得。「保育・子育て支援・地域づくりの拠点」を目指しています。

CONTENTS

□私学の殿堂を目指そう

理事長 金岡 祐一 1

□特集1 「大学教育再生加速プログラム(AP)」

(テーマⅡ 学修成果の可視化)

..... 2～3

□特集2 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の成果と課題

..... 4～5

□平成27年度入試状況・平成26年度進路状況 5

□学園退職者・新任者一覧 5

□平成27年度予算概要 6～7

□学園NEWS 8

大学教育再生加速プログラム (AP)

(テーマⅡ 学修成果の可視化)

富山短期大学教育改革プロジェクト

富山短期大学は、文部科学省の「(平成26年度)大学教育再生加速プログラム(AP)」(テーマⅡ 学修成果の可視化)において、短期大学では全国で唯一採択されました。

この取組は、「学修成果」を測定する手段の数値化・精緻化・体系化を進めて「学修成果」の可視化を図ることにより、PDCAサイクルの実質化を促し、教育の継続的な「質向上」とその「質保証」の徹底を図ることを目指しています。



1. 教育改革の方向とAP事業の位置付け

本学は建学の精神に基づいて、「職業又は实际生活に必要な能力の向上をはかるとともに、高い知性と広い教養と健全にして豊かな個性をもった、地域社会の発展に貢献する人材を育成すること」(学則第1条)を教育の目的としています。

この教育目的に基づいて、本学のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)ではより具体的に、①健康で豊かな「人間性」、②実践の土台となる「実践知」、③社会人・職業人として責任ある行動をとれる「実践力」、④生涯学び続け成長し続けるための「主体的に学ぶ力」、を育むことを教育目標として掲げています。

この教育目的・目標の実現のために、本学では、学長のリーダーシップの下に構築された全学的な教学マネジメント体制の下で、教育の「質向上」と「質保証」のためのPDCAサイクルの整備と、そのためのガバナンスの充実・強化のための教育改革を進めてきました。

特に、平成24年度には、ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)、カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)、アドミッション・ポリシー(入学者受け入れの方針)の三つを策定し、教育の体系化を進めています。また、「何を教えるか」よりも「何ができるようになるか」を重視した教育内容・方法への転換を目指した改革を加速するために、ディプロマ・ポリシーの中で「学修成果(Learning Outcomes)」を具体的に明示しました。

「学修成果」とは、本学ならびに各学科が育成する人材が身に付けるべき「力」を定義したもので、おおよそ、①「知識・理解力」、②「技能・表現力」、③「思考・判断力」、④「関心・意欲・態度」、⑤「人間性・社会性」の5つの能力基準別に、学科ごとに具体的に明示されています。

この「学修成果」の向上には、何よりもまず学生の「主体的に学ぶ力」が欠かせません。平成24年度以降、「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」の補助金を得て、e-Learning機能を搭載した学修・教育支援システム「Webシラバス・システム」を構築し、学生たちの自学自習・協働学習を支援するための学習環境(ラーニング・

コモンズ/ラーニング・スタジオ)等の整備を進めています。

しかしながら、教育の「質向上」と「質保証」のためのPDCAサイクルを実質化するには、「学修成果の可視化」が不可欠です。このたび選定された本学のAP事業は、この「学修成果」の到達度と変化を、教員のみならず学生やステークホルダーが評価し、数量的・体系的に把握した上で、それを教員・学生・ステークホルダーにフィードバックすることによって、授業改善や学生の「主体的な学び」、ひいては本学の教育改善・改革につなげていこうとするものです。

2. AP事業の内容・到達目標

(1) 具体的な内容

AP事業の具体的な内容は、以下の5つの柱からなっています。

第一に、「学修成果評価システム」を構築して「学修成果の到達度」を数値化します。

これは、教員が各授業科目の成績評価を、「学修成果」の5つの能力基準別に行うものです。

もちろん、科目によって、学生に身に付けてもらいたいと思う「学修成果」は異なります。それを学生ごとに集計することによって学生の能力特性を把握し、それに応じた学生の個別指導が可能となります。

また、学科ごとに集計することによって、学科が目指している「学修成果」の到達度と変化が可視化されます。それは、カリキュラム・ポリシーや授業内容・方法を見直す判断材料を与えてくれます。

第二に、学修・教育支援システムである「Webシラバス・システム」の機能を拡充して、「(毎回・期末)授業アンケート」・「学修行動・生活調査」等を実施します。

毎回の「授業アンケート」は、学生の理解度、興味・関心度、授業への参加度をリアル・タイムで把握できるため、直ちに次の授業改善に役立てることができます。

期末の「授業アンケート」では、授業科目ごとに「学修成果」に関する学生の自己評価、ならびに「授業内容・方法」に関する評価と学生自身の「学修行動・生活行動」

を把握することによって、「学修成果」および学生の「授業満足度」を左右する要因分析が可能となります。

入学時ならびに学年末の「学修行動・生活調査」でも同様に、「学修成果」に関する学生の自己評価、ならびに学生自身の「学修行動・生活行動」を把握することによって、「学修成果」の到達度・変化や、それらを左右する要因の分析が可能となります。

第三に、就職先・卒業生に対するアンケートの実施や外部評価委員会の設置によって、第三者評価をPDCAサイクルに反映させます。

「第三者アンケート」では、本学の卒業生が、仕事を遂行する上で必要な能力・資質（＝「学修成果」）を身に付けているか否かをチェックし、本学の教育の質を第三者の視点から評価するためのものです。また外部評価委員会は、ステークホルダーならびに学識経験者の立場から、本学の教育改革の取組に関する課題・問題点を指摘して頂き、PDCAサイクルに反映させるためのものです。

それがとりもなおさず、地域社会から期待される「地域へつなぐ」教育の実現に資すると考えています。

第四に、「学生情報ファイル・システム」を構築し、教員による成績評価はもとより、上記アンケートで得られた各種情報を学生にフィードバックします。これによって、学生に「振り返り」を促し、「主体的学びの好循環」が生まれることを期待しています。

第五に、全学的なFD／SDを中心に教職員協働による教育改善・改革の機動的な推進体制を強化する内容です。

教職員間においても、情報共有システム、協働支援システムを整備して、情報の共有を徹底します。特に、システム構築がほぼ完了する平成28年度には『授業改善事例集』を作成し、各種データに基づく具体的な授業改善の方法を検討していきたいと考えています。

(2) AP事業における数値目標

以上のように、このAP事業では、「学修成果の到達度と変化・向上」を、教員のみならず学生や、第三者のステークホルダー、特に就職先にも評価して頂き、それらを教員の授業内容・方法の改善、学生の「主体的学び」への動機づけ、ステークホルダーとの共通理解の形成等につなげることで、教育の「質向上」と「質保証」の徹底を図ろうとしています。

その「質向上」と「質保証」の徹底のため、このAP事業では事業の最終年度である平成30年度を目途に達成すべき数値目標を掲げています。

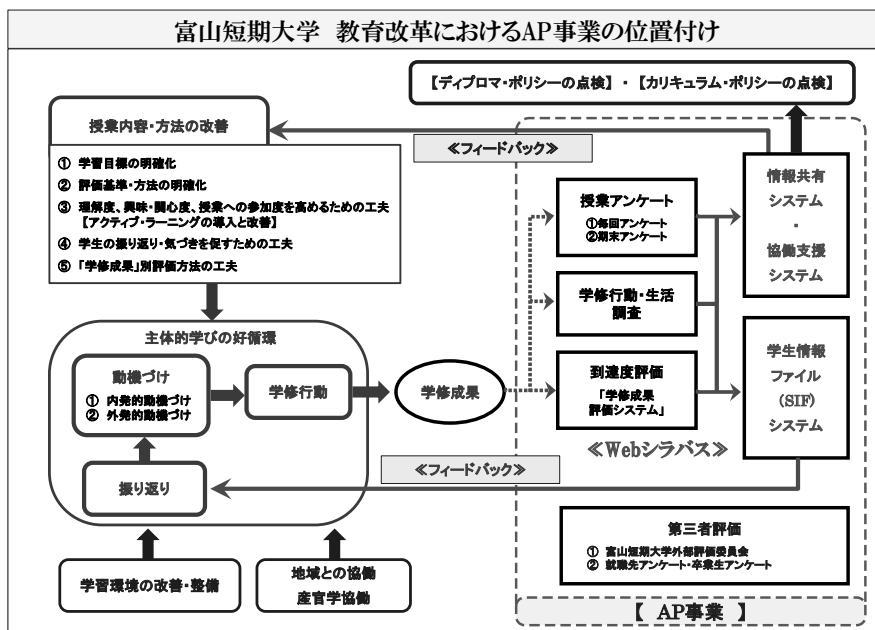
例えば、①学生の授業外学習時間を週当たり20時間、②学生の授業に対する満足度を平均で80%、③アクティブ・ラーニング（AL）の導入科目数を全授業科目の67%、④講義科目におけるAL導入科目数を全体の40%、とすることなどです。

これらの数値目標を達成するためには、数値目標の達成度を検証できる仕組み・システムを構築するとともに、教員が、様々な形態・方法によるアクティブ・ラーニングや反転授業等の導入、あるいは授業外学習時間を増やすための工夫等に関して積極的にコミットしていく必要があります。それがとりもなおさず、「学修成果」の向上、すなわち教育の「質向上」と「質保証」に資することになると考えています。

3. おわりに

もちろん「学修成果の可視化」に当たっては、多くの課題が残されています。しかしながら、当面する課題の一つ一つを、ステークホルダーのご意見も伺いながら、教育現場の実情に合わせて解決し、可視化されたデータを基にPDCAサイクルの実質化を進めて、教育の「質向上」と「質保証」の徹底に邁進していきます。

今後も、絶え間ない進化を続ける富山短期大学に、ご支援・ご協力をお願いいたします。



「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の成果と課題

現代社会学部長 高橋 光幸

1. 事業概要

富山国際大学は、平成24年度に文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に選定され、現代社会学部において24年度から26年度までの3年間、①アクティブラーニングを活用した教育力の強化、②地域・産業界との連携力の強化の2つを柱とした事業推進を図りました。事業の推進にあたっては、中部圏の23大学・短期大学と連携し、北陸チーム（5大学1短期大学）の一員として活動しました。

2. 事業の成果と課題

(1) アクティブラーニングを活用した教育力の強化

① アクティブラーニングの採用

学生の学習意欲の増進と主体的な学びの促進に役立つような効果的な教育方法を検討し、対話・双方向型教育、演習型教育、反復型教育、地域フィールドワーク、グループ学習、授業外学習指導や自主学習の採用を決め、さらに、授業科目ごとに到達目標、該当するディプロマ・ポリシー、該当するカリキュラム・ポリシー、重視する能力であるキーコンピテンシーおよび採用する教育方法（授業方法）をシラバスに明示しました。今後は、シラバス内容の改善を図り、学生が授業を確実に理解し、学習効果が上がるようにしていく必要があります。

② 教育実践の成果測定

平成26年度から、授業評価アンケートにおいて科目ごとの到達目標に対する学生の評価を把握し、4つのディプロマ・ポリシーとの関連付けを行ったうえで、授業科目

のタイプ別に4つのディプロマ・ポリシーの達成度（5点満点）を測定しました。今後は、さらに成果測定方法を改善するとともに、教員の教育実践の向上を行っていくことが必要です。

③ 優れた教育実践の経験交流および共有化

平成25年度から学部FD研修を活発化させて、アクティブラーニングの手法の相互学習、授業参観を通じた教員の授業方法についての意見交換を中心的に行うとともに、優れた授業実践のデータベース化を図ってきました。また、外部講師を招いたFD研修会も積極的に開催し、アクティブラーニングの実践についての知識を深めました。このような取り組みを通じて教員の教育方法の改善が進みましたが、更なる取り組みが必要です。

(2) 地域・産業界との連携力の強化

① 地域・産業界との教育連携

本学のインターンシップや各授業科目における地域・産業界との教育連携を推進するとともに、地域づくり実習、専攻実習、専門演習Ⅱ（卒業研究に相当）、キャリアデザイン講座、正課外活動である夢への架け橋助成事業において一層の地域・産業界との教育連携を図りました。また、本学が主幹校となり、平成25年12月に北陸地区大学短大連携FD研修会を開催しました。基調講演・議論を通じて企業が求める人材像についての意見を把握し、それらを本学の演習型長期インターンシップやキャリア系科目に反映し改善に努めました。地域・産業界との連携を更に強化するためには、これまでの取り組みを見直す



ともに、新たな取り組みの構築が必要です。

②海外インターンシップの実施

中国に進出している日本企業での現地インターンシップを推進するため、平成26年度に江蘇省南通市に立地する日系企業をインターンシップ先として開拓し、26年度に2名の学生がインターンシップに参加しました。また、平成24年度に富山県が主管して実施している大連の日本

企業でのインターンシップに2名参加しました。海外インターンシップ受け入れ先の開拓は着実に進んでおり、今後は参加する学生を増やすことが必要です。

以上のように、本事業の推進によってアクティブラーニングを活用した教育力の強化、および地域・産業界との連携力の強化が着実に進展しました。今後もさらに取り組みを強化していきたいと思っております。

平成27年度入試状況

大学

(平成27年4月4日現在)(単位:人)

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
現代社会	120	215	215	209	116
子ども育成	80	260	259	174	94
合計	200	475	474	383	210

※現代社会学部の合格者数には、第二志望合格10名を含む

短大

(平成27年4月4日現在)(単位:人)

学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
食物栄養	80	194	193	129	102
幼児教育	80	202	202	163	110
経営情報	100	194	194	185	125
福祉	70	43	43	50	34
食物栄養専攻	15	17	17	16	16
合計	345	650	649	543	387

※経営情報学科、福祉学科の合格者数には、第二志望合格者を含む

高校

(平成27年4月8日現在)(単位:人)

コース・クラス	募集人員	出願者	受験者	入学者
国際英語コース	1クラス	217	216	28
特進コース	1クラス	476	476	28
フロンティアコース	6クラス	895	889	235
合計	8クラス	1,588	1,581	291

平成26年度進路状況

(平成27年5月1日現在)(単位:人)

学部	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
現代社会	97	82	80	97.6	4
子ども育成	77	73	73	100.0	4
合計	174	155	153	98.7	8

(平成27年5月1日現在)(単位:人)

学科	卒業生	就職希望者	就職決定者	決定率(%)	進学者
食物栄養	88	85	85	100.0	1
幼児教育	88	86	86	100.0	1
経営情報	127	122	122	100.0	5
福祉	45	38	38	100.0	6
食物栄養専攻	16	16	16	100.0	0
合計	364	347	347	100.0	13

(平成27年5月1日現在)(単位:人)

大学	入学者	合格者	短期大学	入学者	合格者	その他	入学者	合格者	卒業生
富山国際大学	14	20	富山短期大学	34	38	専修各種学校	99	105	334
国公立	11	11	公立短大	2	2	就職		56	
他の私立大学	94	153	他の私立短大	7	7	その他		17	
計	119	184	計	43	47	計		172	

平成27年度新入園児童

幼稚園

(平成27年4月10日現在)(単位:人)

	新入園児	在園児	計	男	女
3歳児	36	—	36	18	18
4歳児	1	32	33	16	17
5歳児	1	31	32	17	15
合計	38	63	101	51	50

平成26年度卒園児童

(平成27年3月31日現在)(単位:人)

	男	女	合計
5歳児	24	20	44

◆退職者一覧(平成27年3月31日)

<学園本部事務局>

山本 実(常務理事・事務局長)

<大学> 浦山 隆一(現代社会学部教授)

武藤 憲夫(子ども育成学部教授)

<短大> 小芝 隆(副学長・幼児教育学科教授)

石黒 康子(福祉学科教授)

金田 桜子(経営情報学科准教授)

古崎 哲(教務部・学生部学務課長)

井黒 陽子(教務部・学生部学務課副主幹)

<高校> 岡部 二郎(教諭)

松原美穂子(講師)

日俣 佳子(講師)

宮永 有季(講師)

◆新任者一覧(平成27年4月1日付)

<学園本部事務局>

林 清文(事務局長)

※平成27年5月27日付 常務理事

<大学> 川本 聖一(現代社会学部教授)

<短大> 杉本ますみ(付属図書館司書・主査)

幸藤 輝(教務部・学生部学務課主事補)

平成27年度 予算概要

平成27年度の事業計画および予算は、去る3月25日の評議員会・理事会において承認されました。

新年度予算は、昨年度策定した「新・経営改善計画」に沿って作成してあります。

また、平成27年度より、学校法人会計基準の一部が改正されました。特に、事業活動収支予算（旧：消費収支予算）は、事業の活動区分ごとの収支状況が把握できるものとなっています。なお、会計基準の改正の概要は別記を参照して下さい。

各校ごとの主な事業計画および予算の特徴は以下のとおりです。

大学

子ども育成学部は、教員採用試験実績等の教育成果により安定的に入学定員を確保しています。また、現代社会学部では定員割れの状況は改善傾向にあり、大学全体では、昨年度に引き続き入学定員を確保し、28百万円余りの黒字を見込んでいます。

主な事業としては、昨年度に策定した3年間を計画期間とする「アクションプラン」の年度計画の実行・検証、入学定員の確保に向けた対策の強化、キャリア支援体制と就職対策の強化、英語教育の強化、国際交流や地域との連携・交流活動の強化等が挙げられます。

資金収支予算書

平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで (単位：千円)

	平成27年度予算額	平成26年度当初予算額	差 異		
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,879,687	1,870,909	8,778	
	手数料収入	37,285	35,726	1,559	
	寄付金収入	5,792	18,938	-13,146	
	補助金収入	614,633	644,364	-29,731	
	資産売却収入	1	1	0	
	付随事業・収益事業収入	78,206	76,652	1,554	
	受取利息・配当金収入	10,220	13,220	-3,000	
	雑収入	36,544	162,324	-125,780	
	借入金等収入	0	0	0	
	前受金収入	466,991	465,991	1,000	
	その他の収入	218,939	170,557	48,382	
	資金収入調整勘定	-525,201	-644,375	119,174	
	前年度繰越支払資金	376,000	798,000	-422,000	
	収入の部合計	3,199,097	3,612,307	-413,210	
	支出の部	人件費支出	1,559,987	1,745,069	-185,082
		教育研究経費支出	577,734	536,187	41,547
管理経費支出		131,179	136,500	-5,321	
借入金等利息支出		0	0	0	
借入金等返済支出		0	0	0	
施設関係支出		7,937	7,583	354	
設備関係支出		78,188	44,844	33,344	
資産運用支出		446,272	331,124	115,148	
その他の支出		213,500	130,800	82,700	
〔予備費〕		15,500	15,500	0	
資金支出調整勘定		-76,200	-215,300	139,100	
次年度繰越支払資金		745,000	880,000	-135,000	
支出の部合計		3,699,097	3,612,307	86,790	

短大

短大は、昨年度、入学定員を割り込む危機的状況に追い込まれました。この状況を打開するため、学生募集活動および入試方法の検証・改善により、平成27年度は志願者・入学者を大幅に増やすことができました。しかし、今後も学生募集広報活動等の検証を続け、定員確保に努める必要があります。また、収支状況としては、8百万円余りの黒字予算に留まっています。

主な事業としては、大学と同様に平成27年度から3カ年を計画期間としたアクションプランの策定、昨年度に文部科学省より採択された「大学教育再生加速プログラム【AP】」の着実な実施、課外活動・学生生活サポート支援強化、キャリアデザイン教育の充実等です。

高校

新校舎完成やスクールバスの運行、iPadを利用したICT教育の充実等により生徒数は安定的に入学定員を確保し、27百万円余りの黒字予算となりました。しかし、生徒数増に伴い大量に採用した教員は、今後、生徒数の平準化にあわせて適正人数に抑制する必要があります。

主な事業としては、グローバルハイスクールに相応しいICT教育の推進と英語教育環境の整備、ユネスコスクールアジア地区ネットワークの構築、生徒の安全確保のための整備等です。

事業活動収支予算書

平成27年4月1日から
平成28年3月31日まで (単位：千円)

	科 目	平成27年度 予算額	平成26年度 当初予算額	差 異
教育活動収入	学生生徒等納付金	1,879,687	1,870,909	8,778
	手数料	37,285	35,726	1,559
	寄付金	7,494	20,640	-13,146
	経常費等補助金	614,633	644,364	-29,731
	付随事業収入	78,206	76,652	1,554
	雑収入	36,544	162,324	-125,779
	教育活動収入合計(1)	2,653,850	2,810,615	-156,765
	人件費	1,569,987	1,750,069	-180,082
	教育研究経費	882,734	834,587	48,147
	管理経費	133,179	138,700	-5,521
徴収不能額等	1	0	1	
教育活動支出合計(2)	2,585,901	2,723,356	-137,455	
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)	67,949	87,259	-19,310	
教育活動外収入	受取利息・配当金	10,220	13,220	-3,000
	その他の教育活動外収入	1	0	1
	教育活動外収入合計(4)	10,221	13,220	-2,999
	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出合計(5)	0	0	0	
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)	10,221	13,220	-2,999	
経常収支差額(7)=(3)+(6)	78,170	100,479	-22,309	
特別収入	資産売却差額	1	1	0
	その他の特別収入	4	0	4
	特別収入合計(8)	5	1	4
	資産処分差額	9,700	15,500	-5,800
	その他の特別損失	1	0	1
特別支出合計(9)	9,701	15,500	-5,799	
特別収支差額(10)=(8)-(9)	-9,696	-15,499	5,803	
【予備費】(11)	15,500	15,500	0	
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)	52,974	69,480	-16,506	
基本金組入額合計(13)	-42,635	-20,646	-21,989	
当年度収支差額(14)=(12)+(13)	10,339	48,834	-38,495	
前年度繰越収支差額(15)	-2,888,724	-3,160,432	271,708	
基本金取崩額(16)	0	0	0	
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)	-2,878,385	-3,111,598	233,213	
(参考)				
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)	2,664,076	2,823,836	-159,760	
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)	2,611,102	2,754,356	-143,254	

幼稚園

預かり保育に伴う人件費増等により11百万円余りの赤字予算となりました。県内の他園が園児募集に苦戦している中で、本園は安定的に定員を確保しています。しかし、財務状況としては赤字が続いており、園舎の耐震化問題への対応も急務であることから、今後の財務改善策が求められます。

主な事業としては、昨年度に引き続き預かり保育充実、幼稚園将来構想の検討継続等です。

学園全体

事業活動収支予算【従来の消費収支予算を活動区分別に分類し、その均衡状態を表すもの】において、事業活動収入（旧：帰属収入）合計が2,664百万円（対前年度当初予算比160百万円減・5.7%減）となっています。事業活動支出（旧：消費支出）合計は2,611百万円（同143百万円減・5.2%減）となり、これから基本金組入額を差し引いた当年度収支差額が10百万円の黒字となりました。

資金収支予算【1会計年度の全ての資金の収入と支出を明らかにし、資金の動きを表すもの】において、平成27年度の諸活動に対応する収入として、学生生徒等納付金収入、補助金収入、付随事業・収益事業収入、平成27年度入学生の前受金、平成26年度末の未収入金の見込額等が計上されています。

一方、支出は、人件費、教育研究経費、管理経費、施設・設備関係等が計上されています。その結果、平成27年度の諸活動に対応する全ての収入・支出の資金として、3,699百万円（同87百万円増・2.4%増）が見込まれています。

学園の財政状況は、呉羽キャンパスでの一連の施設改築（高校校舎改築および短大校舎改築Ⅰ期工事等）が一段落しましたが、これらは全て自己資金により実施したため、学園の自己資金は大幅に減少し、学園の財務状況は非常に厳しい状況となりました。また、今後、幼稚園舎耐震化や短大Ⅱ期工事等を検討しなければならないため、経常収支での黒字化を安定的に継続させ、これらの資金確保に努めなければなりません。そのためには、経費の節

平成27年度部門別事業活動収支予算書

(単位：千円)

活動区分	科目	部	門	法	人	大	学	短	大	高	校	幼	稚	園	総	額
教育活動収支	収事入業の活動	収入	学生生徒等納付金		0	788,199	693,111	371,118				27,259			1,879,687	
			手数料		0	12,892	16,088	8,270				35			37,285	
			寄付金		2	2,101	3	4,688				700			7,494	
			経常費等補助金		0	197,766	126,252	270,987				19,628			614,633	
			付随事業収入		0	16,774	19,702	35,219				6,511			78,206	
	雑収入		200	7,030	28,201	1,114				0				36,545		
	教育活動収入合計(1)		202	1,024,762	883,357	691,396				54,133				2,653,850		
	支事出業の活動	支出	人件費		36,311	573,178	512,881	405,728				41,889			1,569,987	
			教育研究経費		0	346,985	304,500	208,715				22,534			882,734	
			管理経費		13,665	58,217	44,146	16,376				775			133,179	
徴収不能額等				0	1	0	0				0			1		
教育活動支出合計(2)		49,976	978,381	861,527	630,819				65,198				2,585,901			
教育活動収支差額(3)=(1)-(2)		△49,774	46,381	21,830	60,577				△11,065					67,949		
教育活動外収支	収事入業の活動	収入	受取利息・配当金		10,020	100	100	0			0				10,220	
			その他の教育活動外収入		0	0	1	0			0				1	
			教育活動外収入合計(4)		10,020	100	101	0			0					10,221
	支事出業の活動	支出	借入金等利息		0	0	0	0			0				0	
			その他の教育活動外支出		0	0	0	0			0				0	
教育活動外支出合計(5)		0	0	0	0			0					0			
教育活動外収支差額(6)=(4)-(5)		10,020	100	101	0			0		0				10,221		
経常収支差額(7)=(3)+(6)		△39,754	46,481	21,931	60,577				△11,065					78,170		
特別収支	収事入業の活動	収入	資産売却差額		0	0	1	0		0					1	
			その他の特別収入		0	0	4	0		0					4	
			特別収入合計(8)		0	0	5	0		0		0				5
	支事出業の活動	支出	資産処分差額		0	3,100	3,500	3,100		0					9,700	
その他の特別損失				0	0	1	0		0		0				1	
特別支出合計(9)		0	3,100	3,501	3,100		0		0					9,701		
特別収支差額(10)=(8)-(9)		0	△3,100	△3,496	△3,100		0		△9,696							
【予備費】(11)		2,000	5,000	5,000	3,000		500							15,500		
基本金組入前当年度収支差額(12)=(7)+(10)-(11)		△41,754	38,381	13,435	54,477		△11,565							52,974		
基本金組入額合計(13)		△10	△10,192	△5,248	△27,185		0		△42,635							
当年度収支差額(14)=(12)+(13)		△41,764	28,189	8,187	27,292		△11,565		10,339							
前年度繰越収支差額(15)		—	—	—	—		—		△2,888,724							
基本金取崩額(16)		—	—	—	—		—		0							
翌年度繰越収支差額(17)=(14)+(15)+(16)		—	—	—	—		—		△2,878,385							
(参考)																
事業活動収入合計(1)+(4)+(8)		10,222	1,024,862	883,463	691,396		54,133							2,664,076		
事業活動支出合計(2)+(5)+(9)+(11)		51,976	986,481	870,028	636,919		65,698							2,611,102		

減や予算の適正執行・学生生徒等の定員確保は絶対条件であり、その上で今後の収支見通しを十分に予測し、計画的に施設整備を進めなければなりません。

本学園は創立50周年を迎えて、新たな一歩を踏み出しました。これまでの50年の歴史を支えてくださった皆様への感謝を忘れずに、これからも「地域に根ざした学園」として前進しなければなりません。そのためには、学園の持つ知力を地域社会に還元し、学園が地域社会において、「知の拠点」となるよう、教職員一丸となって、教育内容や教育環境の充実・向上に向けて努力しなければなりません。

学校法人会計基準の一部改正について

このたび学校法人会計基準を改正する省令が公布され、平成27年4月1日から施行されました。

新会計基準では、収支状況について経常的な収支と臨時的な収支が区分できるようにし、学校法人の経営判断に役立てるようにすること、新たに活動区分ごとに資金の流れが分かる活動区分資金収支計算書を作成すること等の改正を行い、社会に対する説明責任をも果たすことを狙いとしています。

具体的な改正の概要については、文科省のHPをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shinkou/07021403/1333921.htm

富山国際大学

平成26年度「私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金」に採択



と上下昇降デスクや電子黒板等を導入し、教育の質向上を促進させています。

本補助金は、「教育の質的転換」「地域発展」「産業界・他大学等との連携」「グローバル化」などの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学等に対する支援を強化するための「私立大学等改革総合支援事業」で支援対象校として採択された私立大学等において、取組の実施に必要な設備費に対して補助されるものです。本学は、タイプ1「教育の質的転換」とタイプ2「地域発展」の支援対象校として採択され、タイプ1「教育の質的転換」で本補助金に採択（交付額 13,918 千円）されました。書画カメラやブルーレイ録再機等の視聴覚ツール、積木等の模擬保育室備品、ゼミ室をディスカッションしやすい空間にしよう

富山短期大学

平成26年度「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」

富山短期大学は、文部科学省の「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」（タイプ1 教育の質的転換）に3年連続で採択されました。平成26年度は、3つのアクティブ・ラーニング専用スタジオを整備しました。

47インチ液晶モニター12台からなる大型マルチビジョンと舞台等を備えた「プレゼンテーション（表現）スタジオ」、85インチの大型ディスプレイ等を備えた「トレーニング（実習）スタジオ」、32インチ液晶モニター10台と3面スクリーン等からなる「コラボ（協働）スタジオ」です。いずれも、学生個人やグループの成果を皆で共有し、相互に比較・相対化することで、一人一人の振り返り・気づきを促すとともに、「学修成果」の向上を図ることを目的としています。



富山国際大学付属高等学校

新たな50年に向けて



4月8日（水）に入学式を挙行了しました。高校では今年度、制服を一新しましたが、新制服に身を包んだ新入生291名が式場に入場してくるのを見ると、全く違った学校の入学式のような感がありました。

高校は昨年、創立50周年を終えましたが、新制服の生徒諸君と次の半世紀を築いていく決意を職員一同が新たにしています。

「国際教育」・「ESD（持続可能な発展のための教育）」・「ICT教育」の3つを今年度の重点教育目標にして、さらなる学校の特色化と教育内容の充実に向け、積極的な生徒募集につなげていきます。

富山短期大学付属みどり野幼稚園

楽しかった親子交流会

4月11日（土）に、幼稚園で親子交流会を行いました。この日は前日に入園式を終えたばかりの年少さんとその家族を含め250名ほどが集まり、各クラスで自己紹介や手遊びをして家族ぐるみの交流を行いました。

その後は園庭に出て、願海寺・野々上獅子舞保存会の獅子舞を見学しました。獅子舞には本園の卒園生（小学生から大人の方々まで）や保護者の方等が参加しておられ、桜の下で勇壮な舞を披露していただきました。地域の方や卒園生、その保護者等多くの方が園庭に集い、子どもたちも獅子の中に入ったり、頭を噛んでもらったりして、楽しいひとときを過ごすことができました。

